



環境省

Ministry of the Environment

平成15年度環境省委託事業

平成 15 年度地球温暖化防止活動推進員等 研修事業（宮城県）報告書

平成 16 年 3 月

財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

目 次

| | |
|-----------------------------|----|
| 1．はじめに | |
| (1) 環境をめぐる動向 | 1 |
| (2) 宮城県の自然的・社会的特性 | 1 |
| (3) 宮城県地球温暖化防止活動推進センターの活動状況 | 2 |
| 2．事業内容 | |
| (1) 目的 | 3 |
| (2) 委託業務のフロー | 3 |
| (3) 事業内容 | 3 |
| 3．受講者 | |
| (1) 受講資格 | 6 |
| (2) 受講者 | 6 |
| 4．研修会の内容 | |
| (1) 研修企画検討委員会 | 7 |
| (2) 研修会の実施計画 | 11 |
| (3) 配布テキスト | 12 |
| 5．研修会の実施結果 | |
| (1) 研修会(1回目) | 13 |
| (2) 研修会(2回目) | 14 |
| (3) 研修会(3回目) | 15 |
| (4) 研修会(4回目) | 16 |
| (5) 研修会(5回目) | 17 |
| (6) 研修会(6回目) | 18 |
| 6．今後の課題 | |
| (1) アンケート及び意見交換会の結果 | 19 |
| (2) 研修事業における課題の整理 | 25 |
| 7．資料編 | |
| (1) 研修テキスト | 27 |
| (2) 研修状況写真 | 54 |

1. はじめに

(1) 環境をめぐる動向

地球温暖化問題が認識されるようになったのは、1985年にオーストリアのフィラハで開かれた会議であった。この会議によって、地球温暖化問題は国際政治の問題としてとらえられるようになった。1988年にカナダのトロントで開かれた会合では、科学者と政府関係者とが初めて一同に会し、具体的な数値目標(トロント目標)を示した勧告が出された。また同年、世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)が、世界の科学者で構成する「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」を設立した。その後、IPCCの第1次報告を受けて、条約づくりのための交渉が始まり、1992年に国連総会で気候変動枠組条約が採択された。採択後は、本格的な地球温暖化対策を実施するために、1995年に第1回締約国会議(COP1)が開かれ、1997年の第3回締約国会議(COP3)では京都議定書が採択された。これにより、地球温暖化問題が日本国民に広く認知されるようになった。

また、国内では1993年に環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境基本法が制定され、1994年に同法に基づき環境基本計画が閣議決定された。2000年に循環・共生・参加・国際的取り組みの4点を長期目標に掲げた新たな環境基本計画が閣議決定された。地球温暖化対策については、1997年に京都議定書が採択されたのを受け、1999年に「地球温暖化対策の推進に関する法律」が施行された。宮城県では、1997年に宮城県環境基本計画、1998年に宮城県環境保全率先実行計画を策定したほか、2001年にISO14001の認証を取得している。さらに、2004年には「新・宮城県地球温暖化対策地域推進計画」が策定される予定であり、国や地域レベルでの地球温暖化対策が活性化している状況である。

参考文献：よくわかる地球温暖化問題改訂版(気候ネットワーク 2003年)

平成15年度宮城県環境白書(宮城県 2003年)

(2) 宮城県の自然的・社会的特性

宮城県は、東北地方の東南部に位置しており、東部は太平洋側に面し、西部には1,000mを越える諸峰を有する奥羽山脈が連なり、北東部及び南東部には高原状の山地が続いている。中央部には仙台平野が広がり、山々の周縁から平野部にかけては里山と呼ばれる丘陵地帯が広く分布している。海岸は中央部の牡鹿半島を境として、北部は複雑なりアス式海岸、南部は単調な砂浜海岸となっている。気候区分は、太平洋岸気候域三陸地方気候区に属し、夏は高温で比較的雨が多く、冬は晴れた日が続き低温で雨が少ない。全般的には温和な気候といえる。

土地利用の推移は、農用地・森林が減少傾向にある一方、宅地・道路が増加を続けており、農林業の利用から都市的利用への転換が進んでいる。エネルギー消費の動向は、2002年度の燃料油販売総量については前年度に比べ2.2%増加しており、このうちガソリンが前年度比4.5%増加している。また、2002年度の総需要電力量については、前年度比で2.0%増加している。自動車保有車両数は年々増加しており、このうち貨物車が減少しているのに対し乗用車が増加を続けている状況である。

参考文献：平成15年度宮城県環境白書(宮城県 2003年)

(3) 宮城県地球温暖化防止活動推進センターの活動状況

ストップ温暖化センターみやぎについて

1999年の「地球温暖化対策の推進に関する法律」の中で、各都道府県に地域センターを設置する方針が決められた。2000年5月に宮城県知事は、環境NGOである財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)を宮城県の地球温暖化防止活動推進センターに指定した。本センターは全国で4番目にできたセンターであり、通称“ストップ温暖化センターみやぎ”として活動を行っている。

本センターの基本計画は、1.地球温暖化をはじめとする様々な環境情報の集積と発信、2.環境に優しいライフスタイルの提案、3.温暖化防止に向けた基礎的調査研究、4.温暖化に関する環境教育の教材作りとその普及活動、5.環境政策に対する積極的な提言、の5つを挙げている。運営に関しては、有識者や専門家等からなる18名の運営委員によって構成される運営委員会を、年間6回開催して進めている。

2003年度の活動状況

2003年度の主な活動状況は、普及・啓発として環境家計簿モニターの実施や省エネパトロールを行い、特に家庭における省エネ活動の普及を行った。調査・研究としては、宮城県で取り組める地球温暖化対策について広く県民から意見・アイデアを募集し、それを検討して宮城県に提言を行った。委託事業としては、宮城県からの委託事業としてエコライフカレンダーの作成や脱・二酸化炭素連邦みやぎ形成フォーラムの運営を行った。2003年度の活動状況は、以下に示すとおりである。

表 1-1 2003年度の活動状況一覧表

| 区 分 | 主な活動内容 |
|-------|---|
| 普及・啓発 | 環境家計簿モニターによる家庭でのエネルギー使用量の実態把握調査の実施 |
| | 夏休みの自由研究等で小中学生向け家庭の省エネ調査「省エネ博士になるぞ！」の講座実施 |
| | 家庭の省エネパトロールの実施 |
| | 地球温暖化問題・省エネ等に関する講演会を独自に実施 |
| 調査・研究 | 宮城の地球温暖化対策に関する県民からのアイデア・意見の募集及びそのまとめ |
| | 市民がつくるみやぎ環境白書の作成 |
| 委託事業 | みやぎエコライフカレンダー2004の作成(宮城県委託事業) |
| | 脱・二酸化炭素連邦みやぎ形成フォーラムの運営(宮城県委託事業) |

2. 事業内容

(1) 目的

地域住民に対する地球温暖化への意識の醸成を図り、実践行動を円滑に推進するには、宮城県地球温暖化防止活動推進センター（以下「センター」という。）地球温暖化防止活動推進員（以下「推進員」という。）等が、地方公共団体の施策と連携・協力しながら実施していくことが重要である。

このため、本事業においては、センターによる推進員等を対象とした地球温暖化防止活動の普及のための基礎知識や、地球温暖化に関する最新の知識及び対策等について研修を実施するとともに、推進員等の活動に寄与する物品を整備するものである。

(2) 委託業務のフロー

委託業務のフローは、図 2-1 に示すとおりである。

(3) 事業内容

委託業務名：平成 15 年度地球温暖化防止活動推進員等研修事業（宮城県）委託業務

委託業務実施期間：平成 15 年 10 月 1 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日

発注者：環境省地球環境局

受注者：財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

委託業務を行う場所：

ストップ温暖化センターみやぎ 【宮城県地球温暖化防止活動推進センター】

（財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク内）

宮城県仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5 階

委託業務に直接従事する主たる職員の職名及び氏名

事務局員 A 南 隆昭

事務局員 C 関川 壽馬

事務局員 E 鈴木 美紀子

工程表：表 2-1 に示すとおりである。

表 2-1 工程表

| 委託業務実施上の区分 | 実施期間 | | | | | | | 摘要 |
|--|-------------|--------|--------|-------------|----|----|--|----|
| | H15 10月 | 11月 | 12月 | H16 1月 | 2月 | 3月 | | |
| 企画案作成 | ↔ | | | | | | | |
| 企画検討委員会 ・検討会資料作成 ・会議準備・開催 ・議事録作成 | ↔ ↔ ↔ | ↔ ↔ | ↔ ↔ | | | | | |
| 研修会 1回目 ・会場準備、受講者との連絡調整 ・研修会資料作成 ・研修会開催 | ↔ ↔ ↔ | | | | | | | |
| 研修会 2回目 ・会場準備、受講者との連絡調整 ・研修会資料作成 ・研修会開催 | | ↔ ↔ | ↔ | | | | | |
| 研修会 3回目 ・会場準備、受講者との連絡調整 ・研修会資料作成 ・研修会開催 | | | ↔ | ↔ ◆ | | | | |
| 研修会 4回目 ・会場準備、受講者との連絡調整 ・研修会資料作成 ・研修会開催 | | | | ↔ ↔ ↔ | | | | |
| 研修会 5回目 ・会場準備、受講者との連絡調整 ・研修会資料作成 ・研修会開催 | | | | ↔ ↔ ↔ | | | | |
| 研修会 6回目 ・会場準備、受講者との連絡調整 ・研修会資料作成 ・研修会開催 | | | | ↔ ↔ ↔ | | | | |
| 研修会テキスト作成 | ← | | | | | | | |
| 報告書作成 | | | | | ← | → | | |
| 会計管理 | ← | | | | | → | | |

3. 受講者

(1) 受講資格

研修の受講者は、宮城県地球温暖化防止活動推進員委嘱予定者および宮城県地球温暖化防止活動推進センターが必要と認める者とする（50人程度）。

ただし、推進員として委嘱される者は、宮城県地球温暖化防止活動推進員設置要綱により、地球温暖化の現状及び地球温暖化対策に関する知識の普及並びに地球温暖化対策の推進を図るための活動の推進に熱意と識見を有する者、宮城県内に居住する年齢満20歳以上の者とする。宮城県地球温暖化防止活動推進センターが必要と認める者についても、講習を受講すれば、宮城県地球温暖化防止活動推進員に委嘱されることが可能である。

(2) 受講者

受講者は46名で、以下に示すとおりである。

表3-1 受講者一覧

| | | | | | |
|--------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 阿部 小百合 | 荒井 仁 | 伊藤 道子 | 岩崎 玲子 | 遠藤 十二郎 | 大橋 博之 |
| 小川 美春 | 奥山 芳子 | 小島 淳子 | 小野 順一 | 門田 陽子 | 金井 ユキエ |
| 菅野 紀男 | 菊地 敏子 | 鬼澤 洋美 | 小池 信彦 | 古仲 朋 | 小林 幸司 |
| 木幡 義孝 | 昆野 加代子 | 櫻井 享侈 | 佐藤 功 | 佐藤 清 | 佐藤 益美 |
| 佐藤 幸 | 佐野 雄一 | 穴戸 則夫 | 菅田 重安 | 菅谷 匡 | 鈴木 美紀子 |
| 鈴木 睦 | 関野 博朗 | 田代 ふゆみ | 千葉 智恵 | 千葉 浩克 | 長南 清裕 |
| 中屋 猛 | 布田 剛 | 星 ひとみ | 星 和佳子 | 松倉 一江 | 三浦 隆弘 |
| 柳原 昊 | 山野 保彦 | 山本 豊 | 米山 明則 | | 合計 46名 |

4. 研修会の内容

民生（家庭）部門における草の根の地球温暖化防止活動の促進を図るため、推進員には地域での活動を統率するリーダー的役割を担う必要があり、地球温暖化問題に関する基礎的な知識の習得のための講義、具体的な削減対策を助言できるようになるための実地研修を行う。

また、受講者の温暖化問題に関する知識向上、地域での活動内容の充実を図るために、参考図書を購入し、受講者に配布する。

研修の企画については、有識者・専門家からなる研修企画検討委員会を設置し意見交換、検討を行う。

(1) 研修企画検討委員会

4人の有識者・専門家を委員とした検討会議を開催し、研修企画についての意見交換及び検討を行った。

研修企画検討委員は以下に示すとおりである。

研修企画検討委員

- ・岩崎 玲子（宮城県環境審議会委員）
- ・門田 陽子（環境カウンセラー、省エネアンバサダー）
- ・長谷川 公一（東北大学大学院文学研究科教授、
ストップ温暖化センターみやぎセンター長）
- ・三浦 秀一（東北芸術工科大学環境デザイン学科助教授）

表 4-1 研修企画検討委員会実施日一覧

| 実施日 | 場所 | 打合せ方式 |
|----------------------------------|-------------------------------|-------|
| 平成 15 年 10 月 16 日 15:00～18:00 | フォレスト仙台 5 階 ストップ温暖化センターみやぎ | 会議 |
| 平成 15 年 11 月 5 日 15:00～18:00 | （財団法人 みやぎ・環境とくらし・ ネットワーク内） | |
| 平成 15 年 12 月 18 日 15:00～18:00 | 仙台市青葉区柏木 1-2-45 | |

研修企画検討委員会（第1回）

- ・日時：2003年10月16日（木）15:00～18:00
- ・場所：フォレスト仙台5階
- ・参加者：岩崎玲子、門田陽子、長谷川公一、三浦秀一（研修企画検討委員）
南隆昭（事務局員）

日程及び講師、研修内容について

日程及び講師、研修内容については、以下の内容で決定した。第3回研修の講師については、早急に3名の候補に打診することで決定した。

| 日程（案） | テーマ（案） | 講師（案） | 備考 |
|---|--|---|--------------------------------------|
| 10/25(土) 午後 | 講演会「地球温暖化の現状、地球温暖化対策の必要性、地球温暖化の国内制度、国際交渉の経緯」 | 長谷川 公一氏 | |
| 12/6(土) 午後 | 地域や家庭などにおける地球温暖化対策の実例、家電製品などに関する情報、模擬温暖化診断の実施 | 門田 陽子氏 三浦 秀一氏 | エコワットの実習 持ち帰り家庭で実践 |
| 1/17(土) 午後 ～ 1/18(日) * 宿泊有り | (1日目午後)集中研修としてプレゼンやワークショップの手法などについての研修。(夜)推進員が何をしたらよいかについて意見交換と横のネットワークづくり。(2日目午前)模擬温暖化診断の結果発表(午後)見学会として省エネモデル校や太陽光発電導入小学校など | 三浦 秀一氏 講師候補として (加藤 哲夫氏) (渡辺 祥子氏) (遠藤 智栄氏) | 家庭での実習結果の報告プレゼン。見学会は機材などを活用している例を見る。 |
| 1/24(土) 午後 | 地球温暖化の科学的知見、国際交渉、国内対策、地球温暖化対策に対する国内諸制度の地域における運用可能性等 | 明日香 壽川氏 | 打診して、了解を得ている。 |
| 1/31(土) 午後 | 地球温暖化に関する研修等の各種事業の効果的な運営手段 | 田中 優氏 | 打診して、了解を得ている。 |
| 2/7(土) 午後 | 地域における各種主体の合意形成の手法 | 須田 春海氏 | 打診して、了解を得ている。 |

* 研修会場はフォレスト仙台（1/17、18を除く）

その他

- ・DVD（地球温暖化防止のための環境学習教材）を見せる機会を作ったほうが良い。
- ・受講者がどのような活動をしたいか把握する必要がある。

研修企画検討委員会（第2回）

- ・日時：2003年11月5日（水）15:00～18:00
- ・場所：フォレスト仙台5階
- ・参加者：岩崎玲子、門田陽子、長谷川公一、三浦秀一（研修企画検討委員）
南隆昭、関川壽馬（事務局員）

第1回研修会の実施報告

第1回研修会の実施報告及び受講者についての説明。

第2回研修の内容について

前半（9:00～12:00）について

研修内容は、家庭でできる地球温暖化対策の例や、グッズ、家電製品について説明をする。

後半（13:00～16:00）について

研修内容は、「民生部門における地球温暖化の現状と課題」をテーマに、以下の項目について講義する予定。

- ・宮城県及び家庭におけるCO₂の排出状況について
- ・国の対策について
- ・地域での課題について
- ・実習「エコワット・ワットアワーメーターの使い方について」

事務局の作業

アンケート（志望、今後取り組みたいこと等）を作成し、受講者に郵送する。

第3回研修の内容について

三浦秀一先生は18日午前の「模擬温暖化診断の結果発表」に参加する。発表はワークショップ形式で、1グループ6～7人程度。グループ毎に診断結果を発表し、その後グループの代表が全員に対して発表する。診断結果の後は、地域における対策、取り組み等について、同じく討論する。最後に先生からまとめのお話をさせていただく。

その他

- ・共通の課題を認識することで、地域における温暖化問題を共有することができる。今後、推進員は家庭を対象にした普及・啓発活動が多くなることから、研修課題は家庭的を絞るべき。
- ・研修事業をやりっぱなしにしてはならない。今後の推進員の活動内容や体制などについて考えるべきではないか。

研修企画検討委員会（第3回）

- ・日 時：2003年12月18日（木）15:00～18:00
- ・場 所：フォレスト仙台5階
- ・参加者：岩崎玲子、門田陽子、長谷川公一、三浦秀一（研修企画検討委員）
南隆昭、関川壽馬（事務局員）

第2回研修の実施報告

第2回研修の実施報告についての説明。

第3回研修の内容について

<意見交換会>について

- ・来年度から推進員が活動していくのに、窓口や体制、活動内容を決めてないというの
はおかしい。宮城県・センターそれぞれに責任があるのだから、意見交換会ではお互
いがどのようなことを期待し、又は求めているのかを明確にするべきである。そうし
なければ、今後推進員とのパートナーシップを構築していくのは困難である。
- ・センターの来年度の事業計画で、推進員との連携を挙げているが、現時点で具体的な
活動内容を明示することはできない。まずは推進員がどのようなことをできるのか把
握する必要がある。
- ・今回の意見交換会で、課題を抽出することが大切なのではないか。それを踏まえて、
県と協力して活動体制を整えていくべきだと思う。

<18日研修>について

課題である模擬温暖化診断については、ワットアワーメーター、エコワットの操作方法
を取得することのみを目的とするだけでなく、共通の情報・ツールを持つために、調
査結果を整理する必要がある。

<見学会>について

見学会について、事務局から以下の説明を行った。

省エネモデル校や太陽光発電導入小学校は、見学会が日曜日であるため許可が得られ
なかった。

宮城県に対して、その他施設やモデル地区について打診したが、適当な場所が見つ
からなかった。

大手家電量販店にも打診したが、人数が多いと一般のお客様に迷惑との回答があった。

1泊2日の研修で、更に今後3週連続して土曜日に研修が続くことから、受講者
の負担軽減のために、無理して見学会を行う必要はないという方針で決定した。

第4、5、6回の研修内容についての確認

事前に依頼した講師には、テーマ及び内容を知らせしている。詳細内容については講師
に一任。

(2) 研修会の実施計画

上記の研修企画検討委員会の協議結果を踏まえて、研修会の実施計画を策定した。研修会の実施計画は以下に示すとおりである。

表 4-3 研修会の実施計画

| 研修会 | 日 時 | 場 所 | 主なテーマ・内容 |
|-------------|--------------------------------|-------------|--|
| 第1回 | 10月25日 [午後] | フォレスト 仙台 | 地球温暖化の現状、地球温暖化対策の必要性、地球温暖化の国内制度等の講義を外部講師1名(長谷川 公一・東北大学大学院文学研究科教授)により実施する。 |
| 第2回 | 12月6日 [午前・午後] | フォレスト 仙台 | 外部講師2名(門田 陽子・環境カウンセラー、三浦 秀一・東北芸術工科大学環境デザイン学科助教授)により、地域や家庭における地球温暖化防止策の実例、省エネ家電製品などの最新情報等の講義を実施する。また、ワットアワーメーター、エコワット等を実際を使用して省エネ効果を測定したり、模擬温暖化診断を行うなどの実践的な研修を行う。 |
| 第3回 宿泊研修 | 1月17日 [午後] 1月18日 [午前] | 茂庭荘 | 外部講師2名(遠藤 智栄・NPO 法人せんたい・みやぎNPOセンター、三浦 秀一・東北芸術工科大学環境デザイン学科助教授)を招き、普及啓発を効果的に行うためのプレゼンテーション技術や普及啓発の手法であるワークショップ運営についての講義を行う。 |
| 第4回 | 1月24日 [午後] | フォレスト 仙台 | 外部講師1名(明日香 壽川・東北大学東北アジア研究センター助教授)を招き、地球温暖化の科学的知見、国際交渉、国内対策、国内諸制度の地域での運用可能性の講義を行う。 |
| 第5回 | 1月31日 [午後] | フォレスト 仙台 | 外部講師1名(田中 優・NPO 法人足元から地球温暖化を考える市民ネット・えどがわ)を招き、地球温暖化防止に関する研修の効果的な運営手法等についての講義を行う。 |
| 第6回 | 2月7日 [午後] | フォレスト 仙台 | 外部講師1名(須田 春海・環境自治体会議)を招き、地球温暖化防止活動を効果的に行うための不可欠な、地域での合意形成の手法等についての講義を行う。 |

(3) 配布テキスト

本事業の目的の1つである推進員等の活動に寄与する物品の整備として、以下の8品を受講者に各々配布した。

表 3-1 配布テキスト一覧

| 種類 | 品名 | 備考(製造元・编者・発行年等) |
|----|---|----------------------------------|
| 機器 | ワットアワーメーター | 株式会社システムアートウェア |
| | エコワット(5個) | 東光精機株式会社 |
| 書籍 | よくわかる地球温暖化問題改訂版 | 気候ネットワーク 2003年 |
| | Eco・エコ省エネゲーム | 足元から地球温暖化を考える市民ネット・えどがわ 2003年 |
| | 平成14年度宮城県環境白書 | 宮城県 2002年 |
| 冊子 | 地球温暖化対策ハンドブック 地域実践編 2002/2003 | (財)日本環境協会全国地球温暖化防止活動推進センター 2003年 |
| | 市民がつくるみやぎ環境白書 2001年度 みやぎで取り組む地球温暖化対策 | ストップ温暖化センターみやぎ 2002年 |
| | 市民がつくるみやぎ環境白書 2002年度 ヨハネスブルグサミットそして地域の取り組み | ストップ温暖化センターみやぎ 2003年 |

5 . 研修会の実施結果

(1) 研修会 (1 回目)

日 時 : 03 年 10 月 25 日 (土) 14 : 00 ~ 16 : 00

場 所 : フォレスト仙台 2 階第 4 会議室

受講者 : 34 名

テーマ : 地球温暖化問題の特質 ~ 社会学から考える ~

講 師 : 長谷川 公一氏 (東北大学大学院文学研究科教授、ストップ温暖化センターみやぎセンター長

内 容

- ・長谷川公一氏から、これまでの公害告発型の環境保全活動から、地球環境問題など行政と市民団体などが協働で取り組む環境保全活動までの性質について環境社会学の観点から解説していただいた。
- ・各受講者から自己紹介と参加の動機を話してもらった。

課題

省エネについての専門的な知識をお持ちの方も多く、今後はどのように省エネ普及を行っていくかが課題。

(2) 研修会(2回目)

日時：03年12月6日(土)10:00~16:00

場所：フォレスト仙台2階第6会議室

受講者：43名

テーマ：[午前] 家庭でできる温暖化対策

[午後] 地域における地球温暖化防止活動の推進と模擬温暖化診断

講師：[午前] 門田 陽子氏(環境カウンセラー、省エネアンバサダー)

[午後] 三浦 秀一氏(東北芸術工科大学環境デザイン学科助教授)

内容

[午前]

・門田陽子氏から、PowerPointを使った模擬講座、家庭でできる地球温暖化対策として事例の紹介、省エネグッズ・省エネ家電製品について説明していただいた。

[午後]

・三浦秀一氏から、地域における地球温暖化活動の推進、都道府県別のCO₂排出量、地域及び家庭から取り組む地球温暖化防止、エコワット・ワットアワーメーターの使い方について説明していただいた。その後、テレビ、ビデオ、携帯充電器等の測定を受講者に体験してもらった。

質疑応答

・ガソリン対策はどの程度進んでいるのか？

公共の交通機関、車の性能レベル、燃料そのものの対策が進んでいる。

・アイドリングストップについて、本当に効果があるのか？

1分以上であれば、効果がある。

・マイナスイオンとCO₂削減は関係あるのか？

関係ないと思う。

・CO₂を固めて地中に埋めることは可能なのか？

現段階では、固めるために使うエネルギーの方が大きい。

課題

アンケートの結果を踏まえて

・資料が多すぎたこと

・午前と午後の内容が一部重複していたこと

(3) 研修会(3回目)

日時：04年1月17日(土)14:00~17:00、18日(日)9:00~12:00

場所：仙台市勤労者保養所 茂庭荘

受講者：39名(17日)、39名(18日)

テーマ：[17日] プレゼンテーション&ワークショップ

パートナーシップ構築のための意見交換

[18日] 模擬温暖化診断の調査結果発表と対策(アイデア)の抽出

講師：[17日] 遠藤 智栄氏(NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター)

[18日] 三浦 秀一氏(東北芸術工科大学環境デザイン学科助教授)

内容

[17日]

- ・遠藤智栄氏から、プレゼンテーション及びワークショップのレクチャーと実践についてPowerPointを使って説明していただいた後、グループワークで課題の「講座を作ってみよう!」の発表を行った。
- ・宮城県の岩崎謙二氏から今後の推進員の活動に対する期待や役割について、ストップ温暖化センターみやぎ事務局の南隆昭からセンターの活動紹介や、2004年度に向けての推進員との連携について、それぞれ説明を行った。その後、推進員の方々から意見を伺った。

[18日]

- ・三浦秀一氏から、地球温暖化における世界の情勢と地域に根ざした対策・検証の必要性等について説明をいただいた。その後、グループワークで課題の「わ~っ!とびっくりエコワット(模擬温暖化診断)」と、対策(アイデア)について発表を行った。

課題

- ・研修全体の課題(アンケートの結果より)
グループワークによる発表会、意見交換会とも時間が短く、十分に行えなかった。時間配分、研修の内容(ボリューム)について、今後検討が必要。
- ・意見交換会を終えての課題(推進員からの意見より)
名簿の作成、情報交換の場(メーリングリスト、情報誌)、依頼の窓口、実際の活動等について推進員から意見が出された。今後、県と検討し、どのような体制を整えるのが課題である。

(4) 研修会(4回目)

日時：04年1月24日(土)14:00~16:00

場所：フォレスト仙台2階第6会議室

参加者：30名(受講者) 3名(一般参加者)

テーマ：地球温暖化の科学的知見と、京都議定書の現状と課題

講師：明日香 壽川氏(東北大学東北アジア研究センター助教授)

内容

明日香壽川氏から PowerPoint を使って、地球温暖化問題の現状と、科学的なデータによって予測される影響としてマラリアの分布拡大、農地・水量の変動等について、COP 及び京都議定書の経緯や仕組み、問題点として、日本の対応やロシアの批准問題、ポスト京都の枠組み、カーボンビジネス、EU 域内排出量取引(EU-ETS)等について説明をいただいた。

質疑応答

・ CDM のプロジェクトについて、お聞きしたのですが？

先に投資金額を設定して、それに対して一定以上の収益を上げるようなプロジェクトを見つけて、それを CDM のプロジェクトにしている。まだ議論が十分されていない状況であり、ケースバイケースで進められている。

・ 前川口環境大臣に対して評価する声があるのですが、COP の時に何か周囲を納得させるような提案を出したのでしょうか？

国益を守るため、NO と言い続けたことが、一部の方々から評価されたこと。国益は守ったが、地球益という観点からはがんばっていない。

・ 京都議定書の 90 年比 - 6 % に対する CO₂ 削減の進捗状況は、どのような感じで進んでいるのでしょうか？

実際は 14% ぐらい削減しなければならない。将来はもっと削減しなければならない可能性があり、そうなればロシア等から排出量を大量に買わなければならない事態も考えられる。

・ 90 年比 - 6 % の数値について、これは国民の意見を反映し、民主的に合意を得られた数値なのでしょうか？

90 年比 - 6 % の数値は、国会で批准して決まったもの。国会が国民の代表になっているので、形式的には国民の意見が反映されている。

課題

経験者コースとして、専門的な用語(CDM、クレジット、ホット・エアー等)が多く使われ、内容も国際交渉や排出量取引等、レベルの高いものであった。そのため、受講者からのアンケートには、「難しかった」という感想が 2 割程度みられた。事務局としては、研修終了の前に研修の中でお話のあった京都議定書の運用ルールや、京都メカニズム、専門的な用語については、配布テキストの「よくわかる地球温暖化問題」に記載されていることを受講者に伝え対応した。

(5) 研修会(5回目)

日時：04年1月31日(土) 14:00~16:00

場所：フォレスト仙台2階第6会議室

参加者：25名(受講者) 2名(一般参加者)

テーマ：地球温暖化に関する研修等各種事業の効果的な運営手段について(省エネゲームや事例紹介)

講師：田中 優氏(NPO 法人足元から地球温暖化を考える市民ネット・えどがわ理事、未来バンク協同組合理事長)

内容

・推進員の方に対して

あがらないコツは、客観的なことを説明する立場にたつこと。はじめに、推進員として「あきらめないこと」、「モラルに頼った活動はしないこと(誰でも取り組める活動)」を心がけて欲しいとお話された。

・足元から地球温暖化を考える市民ネット・えどがわの省エネ事業について

テキストとして配布している「Eco・エコ省エネゲーム」の使い方について解説。途上国など被害を受けるところの写真など無料で利用できる画像の紹介。

・家庭での省エネに関して

民生家庭部門は割合では増加しているが、絶対値では産業による需要が数倍も影響が大きい(データのトリック)。

今年度の東京電力の電力ピーク公開データからの分析により電力のピークは、平日、日中、気温31度以上、午後2時~3時。ピークをカットするためには、民生家庭部門の省エネではなく、産業需要によるピークの分散を、電気料金などのシステム変更で実現するべき。

環境省発表の電気使用量のCO₂換算係数は0.36だが、この換算値で6%削減を達成したとしても、原子力発電とダムによる発電を前提としてしまっている。原子力発電とダムの分をのぞくと係数は0.7ぐらいになる。

・環境と金融に関する話題

我々が貯金したお金が、環境破壊につながるような開発に運用されている。(例：農協貯金 農林中金 世界銀行 農業自由化)

・未来バンク 環境事業と市民事業(まちづくりなど)に限って融資する事業を実施している。

他にも市民バンクの動きが各地で起こっている。有限責任中間法人の形でこうした市民バンクが増えていくのではないか。(例：アーティストパワーバンク：坂本龍一、Mr. Childrenの櫻井和寿らが設立、市民風力発電事業などに限って融資)

(6) 研修会(6回目)

日時：04年2月7日(土)14:00~16:00

場所：フォレスト仙台2階第6会議室

参加者：22名(受講者) 4名(一般参加者)

テーマ：市民参加と合意形成

講師：須田 春海氏(環境自治体会議事務局長)

内容

・これまでの活動の経緯

これまで関わってきた市民活動(市民運動全国センター、アースデイ等)、環境自治体会議、全国地球温暖化防止活動推進センターの経緯について

・地球温暖化政策について

地球温暖化問題に関心がある人が増えているのに、その人たちが行動に移さない理由として、排出量がつかめず、削減効果が手段ごとに計量化されない等によって、どうしたらよいかかわからない状況を生み出しているから、業界変革や政策提言等を進めていくうえで、利害を持つ人が強く抵抗するからである。

・市民参加と合意形成について

自治体のとらえかたと自治体自立や権限を踏まえて、市民参加の歴史や新しい試み(委員会公募、円卓会議、参加型委員会活動等)の状況及び課題についてと、社会合意形成を重視する欧米の実験として討議制意見調査、コンセンサス会議、市民陪審等について。

・推進員について

推進員制度は古い皮袋で、その中に新しい酒を入れることが大切である。ライフスタイルの変化を上から強制すると、「贅沢はすてきた」派が増えてくる。普通に努力していくことが自然に反映されて、それが上手く社会の中に機能していく、そういう市民文化を創ることができる「すてき」であり、そういう社会が造られると古い皮袋に新しい酒が入って推進員の活動も「すてき」と評される。

質疑応答

・仙台市の地球温暖化政策は、全国の自治体の中でどのくらいのレベルなのか？

仙台市は川崎市と同じくらい良い政策を行っている。しかし、良い政策といっても、市民が作っているのではなく、利口な役人が作っているのであれば、成熟した自治体とは言えない。

・市民が参加して政策を決定した場合、何かあった場合の責任は誰が負うべきなのか？

政府は市民の代表だと考えている。一般的には公共政策によってリスクを回避できる場合にやらなかった場合は、もちろん行政の責任である。市民が責任を持ってないから行政に責任を持たせるのではなく、市民が責任を持つ1つの手段として、政府が責任を持つというふうに考えている。

・今の社会では、公募の委員を住民の代表としてあつかってないような感じがするが？

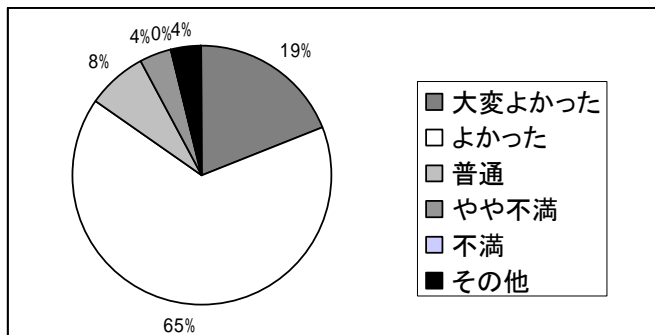
日本の自治体の99%が同じような状況である。今後、早い段階でそのような状況は変わっていくと思う。

6. 今後の課題

(1) アンケート及び意見交換会の結果

各研修会において研修終了後に行ったアンケートの結果、及び研修会（3回目）に行った意見交換会の結果は、以下に示すとおりである。

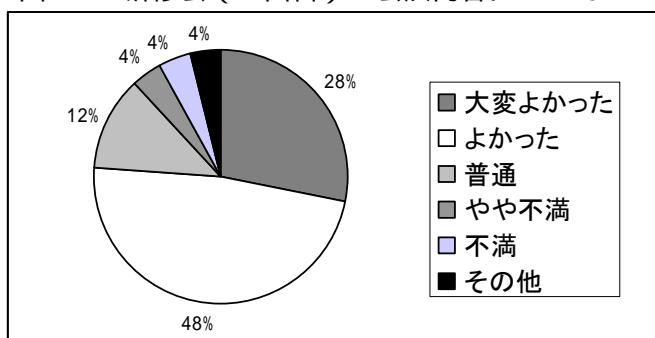
図 6-1 研修会（1回目） 研修内容について



主な感想

- ・ 温暖化の基本や原因、活動の難しさを実感した。
- ・ 問題の所存を分かりやすく説いていただきよかったです。次の一步をどうするべきか疑問に思います。
- ・ 地球温暖化防止の重要性を再認識できた。
- ・ 改めて大きな問題であり、取り組みが難しいと実感した。
- ・ 自分のやるべきことが見えてきました。
- ・ 時間をかけていただければ大変良かったです。
- ・ 自己紹介で他の方々の活動を知ることができた。
- ・ 社会学的な話は、この目的にはあまり役立たないのでは。

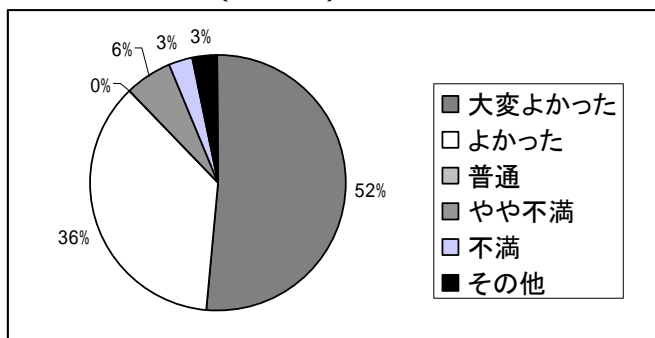
図 6-2 研修会（1回目） 公演内容について



主な感想

- ・ 社会学的なアプローチは難しく感じました。具体的な元気の出る数値を出してもらえたらもっと良かった。
- ・ 仙台のスパイクタイヤや公害について再認識させていただき参考になりました。
- ・ 常識的な内容なので、レベルをもっと高くしてもよい。
- ・ 要点をわかりやすく説明された。
- ・ スピードが速い。
- ・ 45分位の時間では短い。
- ・ 広範囲な内容・問題にしては課題の整理ができた。

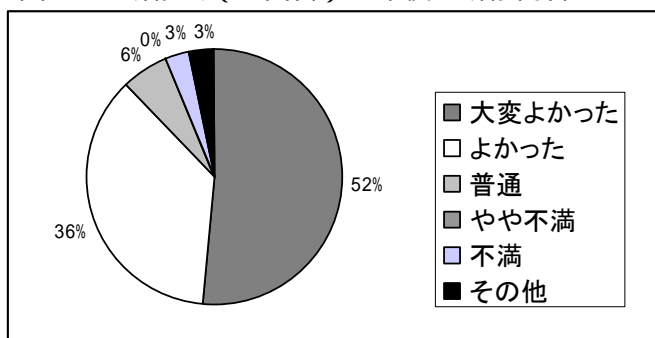
図 6-3 研修会（2回目） 午前の研修内容について



主な感想

- ・ 待機電力の削減など自宅でできる省エネ対策がわかりやすかった。
- ・ 家庭に入った実例が多く、よく理解できた。
- ・ 家庭における節電の具体例を学んだ。
- ・ ちょっと早弁で分かりにくい箇所があったが、経験を通してのすばらしい対応で、何かと大変だと思った。
- ・ 女性の立場から解釈したことで、社会現実を考えた場合、いろいろ疑問を感じます。
- ・ みえるようにするというキーワードが重要であると認識。

図 6-4 研修会（2回目） 午後の研修内容について

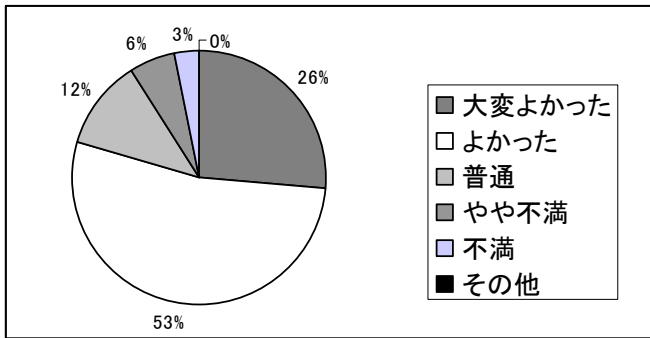


主な感想

- ・ 県別のCO₂排出量など、興味深い話を聞けました。
- ・ 体系的でわかりやすい内容でした。特に住宅における都市特性の話がおもしろかった。
- ・ 事例が具体的で活動のイメージができ参考になった。
- ・ 内容が具体的で今後の推進員活動の参考になる内容が多かった。
- ・ できることを自分でやってみて、それを広げるとことは大切なことだと思いました。
- ・ わかりやすいデータ、資料でよかったです。

図 6-5 研修会（3回目）

17日 [午後] の研修内容について

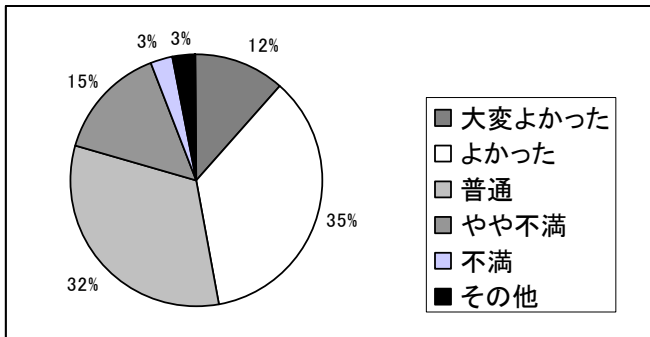


主な感想

- ・説明もワークショップも中途半端。ワークショップを中心に進めた方が良かったのでは。
- ・即活用できる内容であり、また実務的であった。
- ・プレゼンテーションの基本がわかった。
- ・説明や内容はとても良かったが、時間が不足していた。
- ・ワークショップの経験があまりなかったので、参考になった。
- ・推進員として有効な手段を示して欲しかった。
- ・もう1～2回ワークショップを行えば力になったと思う。

図 6-6 研修会（3回目）

17日 [夕方] の研修内容について

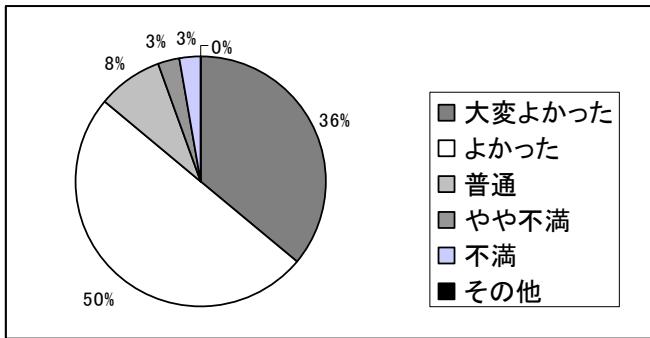


主な感想

- ・意見を述べるまでにいたってない。具体的な回答がなかった。
- ・テーマが大きいのに時間がなさすぎる。
- ・時間が限られていたので意見が思うようにでなかった。
- ・現在の時点では、十分な意見交換は難しいと思います。
- ・意見交換が中途に終わった感あり。
- ・県、センター、推進員それぞれの考え方を知ることができた。
- ・お互いのコミュニケーションが図れた。

図 6-7 研修会（3回目）

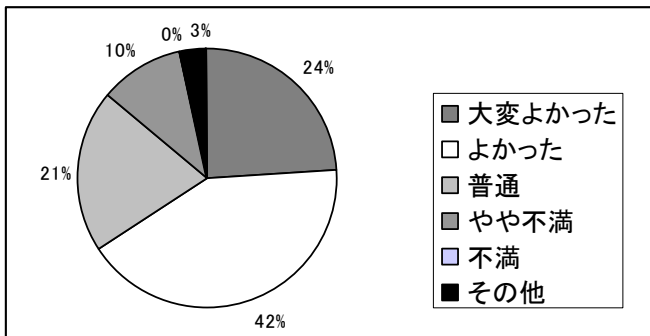
18日 [午前] の研修内容について



主な感想

- ・ディスカッションの時間がたっぷりあり、様々な経験・情報を交換できて有意義でした。
- ・グループ討議により各人毎の考え・悩みを知ることができた。
- ・皆さんの試みの様々を伺えて参考になりました。省エネ診断方法・技術というかコツを習いたい。
- ・各人熱心に取り組んでおり電気に弱い私も少しずつ理解してきた。特に主婦感覚意見がリアルでわかりやすい。
- ・各家庭の事情に合わせた省エネの工夫の仕方を学べた。

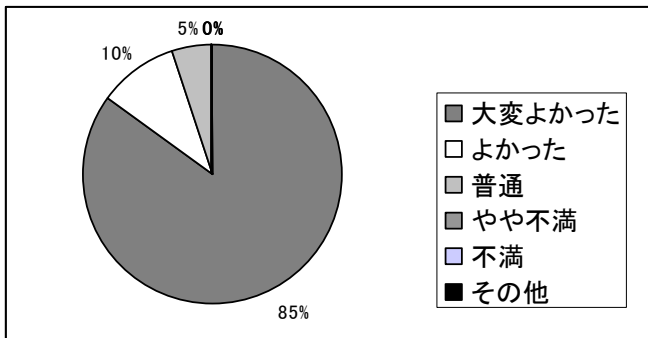
図 6-8 研修会（4回目） 研修内容について



主な感想

- ・内容が専門的なことだったので、難しかった。
- ・京都議定書の問題点について理解できた。
- ・COPの最近の動きや様々な問題点がよく理解できた。
- ・レベルが高すぎて理解できない。解説書もグラフも横文字が多くわかりづらい。専門用語の解説書が必要。
- ・専門用語を具体的に説明していただいてから本題に入れば、もっと身近に受け止められたと思う。
- ・国際会議の裏側の説明を聞いて、興味がわいた。
- ・もう少し時間をかけた解説が必要だったかもしれません。

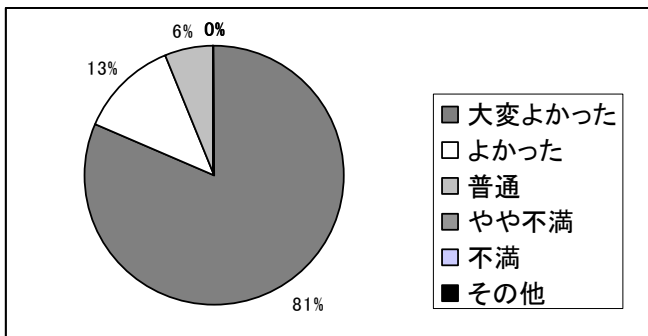
図 6-9 研修会（ 5 回目 ） 研修内容について



主な感想

- ・多面的なお話を聞き、今後の活動に助かった。
- ・実践活動に基づいた迫力ある分かり易い講義で大変参考になった。
- ・推進員としての心構え等が大変参考になった。
- ・未来バンクの実践など地に足のついた活動に納得できました。
- ・省エネの基本的な考え方が非常に納得できた。これまでの研修で今ひとつ自分のものとならなかった省エネの方向性・考え方がトータルで納得できたような気がする。

図 6-10 研修会（ 6 回目 ） 研修内容について



主な感想

- ・民主的な合意形成をつくるのが地球温暖化防止のためにも必要で、その点について興味深いお話を聞いた。
- ・行政の話はあまり聞けない話で貴重だった。
- ・これからの推進員活動の考えや視点に参考になるお話をいただきました。
- ・市民運動の難しさがわかった。推進員としての活動は通り一遍ではやれない。自治体との関連、考え方の整理ができたが、実際の場では大変しんどいと感じた。
- ・身近な具体例がわかりやすくどんどん吸い込まれました。

パートナーシップ構築のための意見交換会[研修会（ 3 回目 ）]における推進員からの意見一覧

推進員からセンターに対しての意見

研修内容に関する意見

- ・まだ実際には活動がはじまっておりませんので、わかりません。本日で研修終了という事なのでしょうか。いろいろ事が性急すぎる感があります。
- ・消化不良。進み方が早い。
- ・テーマが良い。身近なところに内容がある。
- ・基礎知識の講習会がもっと必要では。

情報交換に関する意見

- ・推進員の名簿はあるが、住所がなくて、今回で4回も交流があったが、いろんな不便が生じている。
- ・センターと推進員との定期的な連絡会のようなものを設けた方がよいのではないと思う。
- ・地球温暖化防止活動推進員の活動を報告するための情報誌又はメーリングリストを開設する。
- ・常に新しい情報が流れるように推進員用の情報ネットワークを作ってもらいたい。
- ・推進員として活動して行く時のサポートをお願いしたい（情報の提供など）。
- ・センターと推進員との情報交換の方法はどのようにしていくのでしょうか。一方的にならずまた推進員同士での情報交換が図られる方法、場が必要だと思います。

交流・懇談に関する意見

- ・推進員との懇談（これから実行することを具体的に）

- ・センターの方々には大変詳しい方が多いと思いますので、推進員との交流を数多くやってほしい。

物品の貸出しに関する意見

- ・プレゼン用のプロジェクター、その他の機器を貸出しできる体制を整えてほしい。
- ・パソコンのインターネットについて地球温暖化における・・・小冊子はあることはわかりますが、インターネットに網羅されてあれば、推進員の誰もが活用できるのではないのでしょうか。

今後の活動体制に関する意見

- ・企業や病院、各施設との連携。
- ・チームで活動するようなスタイルがあると、活動しやすいのではないかと思う。チーム編成等を考えてみては。
- ・実際活動する際、慣れるまでは強力なバックアップをお願いしたい。
- ・テーマを決めて、同じようなレベルで活動していけるように、地球温暖化防止ビデオ等を利用して、1年目、2年目とプログラムをつくる（グループで活動してはどうか）。
- ・マニュアル、共通の手順、共通のツール（ビデオ）グループで活動。
- ・推進員への依頼などはどのような方法で伝えられ、我々はどのように応じればよいか示して欲しい。

今後の活動内容に関する意見

- ・研修のワークショップで上がった企画を実際に実施する機会を作ってください。
- ・家庭の省エネパトロールについて積極的に実施されることが望ましい。全面的な協力を行うことが推進員の役割と考える。
- ・家庭の省エネパトロールを本格的に募集してみたらどうでしょうか？そのためのツールを整備して、モデルケースを作る必要があります。
- ・省エネ対策として自治体モデルの指定。
- ・各地域での講義開催時には、レベルを下げて対話してはどうか。大学の先生も良いが、推進員など動員しては。
- ・衣食住エネルギー調査。使うエネルギー測定。
- ・センターの方と推進員の共同で何かやれないか。
- ・推進員全体として活動対象人数の目標を決めて、取り組んではいかがでしょうか。

PRに関する意見

- ・推進員の活動を一般に認知させるようPRを強化して欲しいと思います。
- ・県指定の唯一の機関となっているので、県との連携をさらに一体となったPR等、多いに期待します。
- ・ストップ温暖化センターみやぎの世の中での認知度がいまいちではないか。

センターのスタッフに関する意見

- ・一生懸命がんばっていると思います。これからもがんばってほしいと思います。
- ・少ない事務局員でよくこれだけの活動をされていると思います。推進員と連携して、より幅広い活動を期待します。

その他

- ・自宅学習をもっと積極的に取り組まないと何も答えられない。

- ・屋上緑化について、日本ではまだ失敗例が多いので、屋上緑化の研究例の講演をお願いしたい。
- ・自然エネルギーに関する学習会やプロジェクトをどんどんやって頂きたいです。
- ・環境教育の対象の幅を広げていってください（今は小学～中学ぐらいまでのようなので）。

推進員から宮城県に対しての意見

情報交換に関する意見

- ・推進員の情報の共有のための情報発信をセンターに任せてもらいたい。そのための予算を。
- ・推進員の名簿はあるが、住所がなくて、今回で4回も交流があったが、いろんな不便が生じている。

交流・懇談に関する意見

- ・推進員の研修終了後も定期的に会合をもち、本日の説明にあった今後の進捗説明を受けたり推進員の活動について模索、話し合いする。

県の施策・事業に関する意見

- ・国から予算を受け取ったことは素晴らしいことです。
- ・屋上緑化や太陽光発電への補助がもう少しないと、まだ一般家庭では取り組むのは難しいので、省エネセンターとは別枠で補助を考えてほしい。
- ・森の手入れ、間伐材利用の普及をしてほしい。プラスチック製品よりも木製品の利用。県の私設で利用して下さい。
- ・新たな対策を練る時に全く新しいものを創造するのも良いですが、既存の資料や施設を活用する事も考慮してほしい。
- ・県の温暖化防止への取り組みの全体像、ひいては本活動の位置付けがいまひとつ見えない。
- ・環境対策に関わっている部署を一本化するなど、県民がわかりやすく組織編成した方がよいのでは。ホームページでも施策が見えにくい。
- ・より具体的に活動されているのを知りうれしく思います。事業者への環境対策もこれからメディアを通して発信したら広がりますね。環境対策をすることで、逆にお金が貯まるところをアピールすることで、実践する人が増えると思いました。
- ・私の経験から、民生部門の取り組みが多い様ですが、企業を対象にした（運輸部門）省エネ取り組みを出来ないでしょうか。
- ・どこか、家庭対象の省エネモデル地区を設定し、集中して省エネアドバイス等を行い、結果を数値的に出すプロジェクトをやってみてはいかがでしょうか。

今後の活動体制・内容に関する意見

- ・具体的な活動の場をつくって欲しい。
- ・県主催諸行事の際、交通手段の事前通告
- ・実際に推進員が派遣される場合、どこが窓口になるのでしょうか。県？センター？
- ・県知事から委嘱ということだが、その後のビジョンが示されていないことはいかがなものか。
- ・今までの説明では、どのような活動をするのかさっぱり分からない。計画をきちんとしてもらわないと我々は動けない。
- ・県知事からの委託による活動と聞いているが、どの程度の権限があるのでしょうか。
- ・民間との連携を蜜にし行政主体とならぬ様進めていった方がより良い形となるものと思う。

- ・これからの行動であれ、実践を通しての課題がわからず消化不良。ただ支援（サポート）が必要とされる。
- ・何度か研修を受ける中で、期待される役割などについては理解されつつあるが、実際はどうすればいいの、というのがあります。
- ・年に2回位、推進員の研修をやってほしい。

PRに関する意見

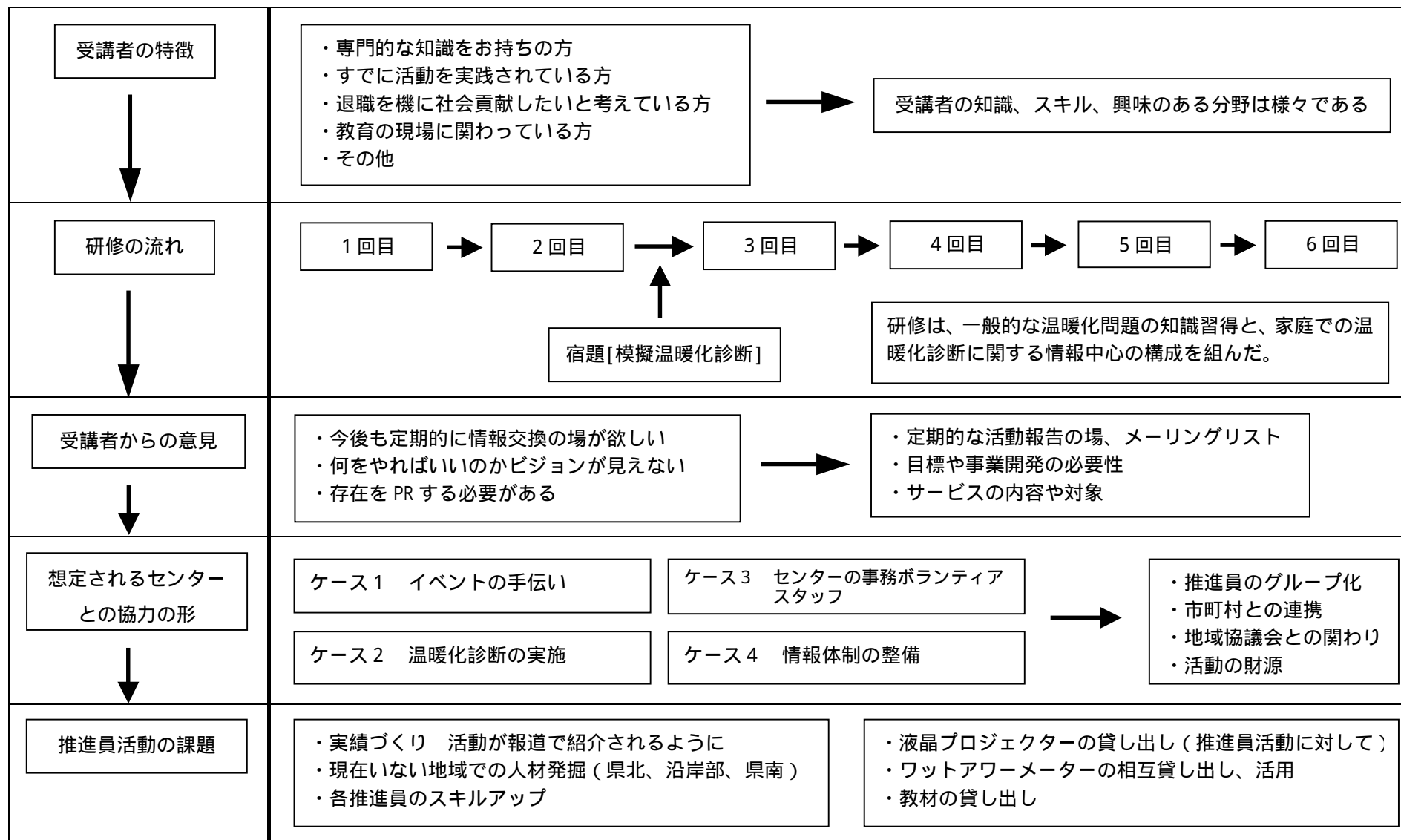
- ・テレビで放映（推進員のことも含めて）
- ・仙台市のワケルくんのようなキャラクターを出した方がわかりやすいと思いますが、そのような案はありますか。
- ・推進員の名称が長すぎるので、何か愛称をつけることはできないでしょうか（これはセンターに要望すべき？）
- ・環境についての研修会等をおこなう場合は、テレビやラジオ、新聞等を使い、終了後や研修中の事を広く県民にわかってもらえればと思う。
- ・県の広報（県民へのアピール）は河北新報社以外の全国紙にも出してもらいたいと思います。
- ・出前講座など、地域に入り込みPRする必要あるのでは。
- ・市町村、各小中学校に地球温暖化防止活動推進員のリストを配布。
- ・昨年12月29日の新聞発表は、知人からも話が出て、少しの効果は出ていると思います。紙面、テレビを通してもっともっと意識向上のキャンペーンを張ってもらう事が推進員の活動の後押しをしてくれる事につながると思います。
- ・県のHP等で推進員のページを作ってほしい（リスト、活動紹介、依頼受付）また同様の内容を各自治体にも知らせて、地域でのイベントの際など声がかかるようにして欲しい。
- ・これは県だけの問題ではありませんが、環境という現象の面から一面的に述べられるだけで、対策の時点でどの様な問題が生じるかがあまりアピールされていません。その意味では県の岩崎さんのお話の憲法と関わるというのは重要な指摘だと思います。このことも率直に県民にアピール広報していくべきで、県民の間に議論を起こせればと思います。議論から何か生まれるのでは。

その他

- ・研修の一方通行で、お互いの確認もないので求められる問に答えが出せない。
- ・となり近所の人々に地球温暖化防止を訴えたり、測定するにはどうしたらよいか。
- ・家庭の省エネルギーパトロールの実施については大賛成。しかし、プライバシー等の問題もあるため、県や各市町村の広報を通し希望する家庭を募ることが必要と思う。

(2) 研修事業における課題の整理

研修事業及び今後の推進員の活動について、研修会の結果及び推進員からの意見をもとに課題を整理した。



研修会についての課題と評価

受講者は年齢が20～70代と幅が広く、これまでの経歴や知識、経験も様々であり、推進員として行っていきたい活動の分野（家庭での省エネ活動の実践、インターネットを使った啓蒙活動、子どもを対象にした普及・啓発等）も多様な状況であった。研修会においては、知識のレベルに差があるのを十分に認識して、事前に研修のテーマだけではなく、どのようなことを研修するのか、予習として読んでおくべき書籍等の情報を与えるべきであった。このようなサポートを受講者に行っていれば、より有意義な研修会になっていたものと思われる。

研修会の内容については、1～3回目が一般的な地球温暖化問題の知識習得と、家庭における省エネの必要性や温暖化診断が中心であり、講師同士で内容が重なる部分もあったが、各講師の特色のある内容（家庭での実践例や地域別の状況等）が非常に好評であった。また、3回目のワークショップは、今までの講義とは違い受講者各々が自ら取り組んだ調査結果、意見等を発表する場であったので、積極的で活発な研修会であった。宿泊についても、横の繋がりができる良い機会であった。4～6回目は、世界的・全国的に活躍されている講師を招いての講演であった。専門的過ぎて難しいとの意見もあったが、めったに聞けない内容とこれまでとは違う視点での話が、これからの推進員活動の方向性を与えるものとなり、また勇気づけられるものであった。講師については、各々が特色を持ち、含蓄があって新鮮な情報を与えてくれた非常に良いメンバーであったと思われる。

課題としては、推進員が今後活躍していくためには、メールやインターネットを最低限のレベルで使いこなせる能力が求められ、当県の受講者は比較的高齢でメールを使えない方が半数以上いることから、IT分野の研修を組み込むべきであったことである。

これからの推進員活動についての課題

3回目の研修会における意見交換会の時に、受講者からセンターや県に対して、これからの活動体制や活動内容、情報交換、PRについて多くの意見が出された。センターとしては、今後も推進員を育てていかなければならず、受講者からの意見を踏まえて早急に活動体制（窓口、連絡手段、物品、マニュアル等）や活動内容（テーマ、対象等）等を整備しなければならない。そのためには、想定されるセンターとの協力の形を具体化することが不可欠である。その後には、PRや人材発掘、スキルアップ等の課題については、県・推進員と連携して克服していかなければならない。その手段として、推進員の増員、定期的な研修会の実施が有効であると思われるため、今後検討を行っていく必要がある。

当委託事業においては、研修前や研修中よりも研修後の推進員の活動体制や活動内容等について課題が多く挙げられるため、今後、他県が推進員等研修事業を行う場合は、研修後の推進員の活動ビジョンを早めに明確にした方が、研修後の活動を円滑に進められるものと思われる。